

「学費稼ぐため休学」

鳥取大学近くで

コロナ禍で困窮する学生に無料で食料品などを配る第6回「フードプロジェクト・学生食料支援」が13日、鳥取市の鳥取大学近くの会館で午前と午後開かれました。同実行委員会が主催したものです。

コメ3時、レトルトカレー、缶詰、菓子類を袋詰めセットにして配り、ダイコンやシロネギも用意しました。

「コロナで自動車整備業の親の収入が減って学費が払えなくなり、学費を稼ぐために

休学しました」(4年生女子)、「給付型奨学金6万7千円(授業料免除)と飲食店のバイト料5万円で暮らしています。すごいもらえて助かります」(3年生女子)、「月4万5万円あった飲食店のバイトがなくなり、生活はかつかつで助かりません。仕送りはなく、収入は奨学金5万円と塾のバイト料2万3千円」[バイト料月10万円が1万5千円に減り、貯金と仕送りで暮らしています](ともに3年生男子)などの声が寄せられました。

困窮学生を支援

「生理用品うれしい」

長崎0円いちば

コロナ禍で困窮する学生を支援しようとして「学生応援一ながさき0円いちば」が13日、



日用品などを選ぶ学生ら13日、長崎市

長崎市内の公園で実施されました。日本民主青年同盟長崎県委員会（筒井涼介委員長）が中心となり取り組まれ、今回で5回目。同盟員以外に3人の男子学生がスタッフとして参加しました。

約50人の学生が来場。テントが張られた会場には開始と同時に学生らが並び、取れたてのネギ、コメ、レトルト食品、洗剤、マスクなどを袋に詰めていきましました。

ツイッターを見たという大学3年の女子学生は「奨学金を受け、親の仕送りとバイトで節約しながら生活しているのですが、こんなにいろいろあって助かります」とうれしそうに話しました。

アンケートにもほとんどの学生が記入し、「生理用品があつてうれしかった」「オンラインの生活で人と関わる機会が減った」などの回答がありました。アンケートに答えた大学1年の女子学生がスタッフ登録しました。通りがかった女性が「学生さんに」とインスタントラーメンを差し入れし、支援物資の提供をしたいがどうすればいいかと尋ねる人もいました。